

●この説明書は必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲警告** …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害、軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲警告**

●キャビネットが落下してケガをするおそれがありますので、下記事項をお守りください。

- ・指定の位置に、厚さ24mm×60mm以上の硬木の棧木を設置してください。
- ・棧木には、虫食い・くされなどのない物を使用してください。
- ・棧木は必ず柱・間柱に釘などで固定してください。ベタ張りの場合は、厚さ18mm以上の合板を使用してください。(厚さ12mmの合板では吊下げ強度が足りません。)
- ・必ず指定の躯体取付けねじφ3.8×60を指定の本数使用してください。
- ・必ず棧木の中央又は厚さ18mm以上の合板に固定してください。
- ・石こうボードなどで補強材(躯体)が見えない場合は、工務店さまに補強材位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどでねじ止め位置に補強材の中心があることを確認してください。
- ・リフォームなどの場合、補強材(躯体)位置が石こうボードで確認できない場合は、石こうボードなどはがして補強材位置を確認してください。
- ・石こうボードの表側には、補強材(躯体)は取付けないでください。

**▲注意**

- 組立ての際は、接合部に付属の接着剤を充てんしてください。充てんされていないと接合部が外れて、キャビネットの落下の原因となります。
- 扉の吊込みの際は、扉の丁番カップをキャビネットの丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。扉の脱落の原因となります。

■取付け上へのお願い

- 壁面(躯体)に固定する際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を調整してください。キャビネットのねじれにより、本体の開閉に支障が出るおそれがあります。
- 養生シートをかぶせる場合は、粘着テープなどを化粧面に張らないでください。はがす際に、化粧シートが損傷するおそれがあります。
- プラスドライバーの先はNo.2のものを使用してください。ねじ頭をつぶすおそれがあります。
- 本製品のねじ締め付け時には、クラッチ付ドライバーの弱で締めてください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
- 発熱灯付近には取付けないでください。熱により、部品が変形するおそれがあります。
- 接着剤は、同梱のものをお使いください。

■部材一覧表

	部材名	数量		
		445W	740W (890W)	11185W (1335W)
部 材	①側板	2	2	2
	②中仕切	-	-	1
	③天板・地板	2	2	2
	④背板	1	1	1
	⑤棚板/W413	1	-	1
	棚板/W708	-	1	1
	棚板/W858	-	(1)	(1)
部 品	棚ダボ	4	4	8
	キャビネット連結 中仕切固定ねじ φ3.5×27(黒)	8	8	13
	躯体取付けねじ φ3.8×60	4	4	8
	接着剤	1	1	1

	部材名	数量		
		445W	740W (890W)	11185W (1335W)
部 品	アーチ型把手セット (把手/トラス小ねじ M4×25)	1	2	3
	丁番座	2	4	6
	丁番カップ	2	4	6
	丁番カップ固定ねじ φ4×16	4	8	12
	ショックアブソーバーセット (アダプター取付けねじ)	1	2	3
扉 部 材	扉/左吊元	-	1	1
	扉/右吊元	-	1	1
	扉/左右兼用	1	-	1

## ■寸法図

※左右勝手は、組立て後に天地を逆にするにより選択できます。

※扉は両開き用扉（左右吊元／各1枚）と、左右兼用扉（把手穴のあいていない扉／1枚）があります。

左右兼用扉の把手穴は貫通していませんが、裏面から上下2ヵ所に道穴が加工してあります。

左右勝手を確認の上、把手穴を貫通して組立てます。

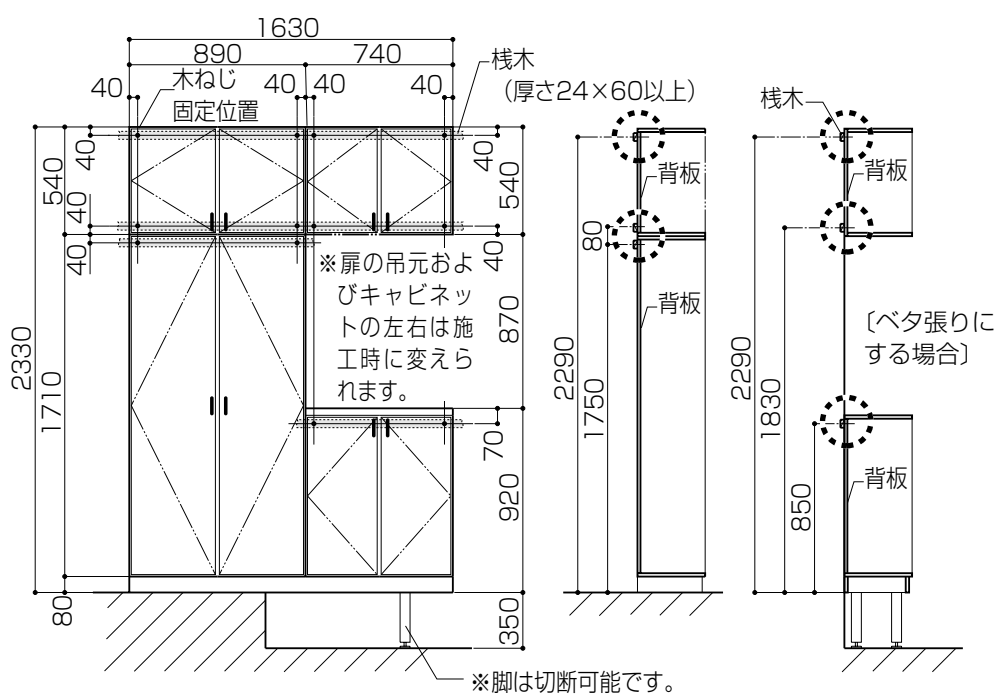
詳細は、「**4**扉の取付け」をご覧ください。



## ■据付け前の準備

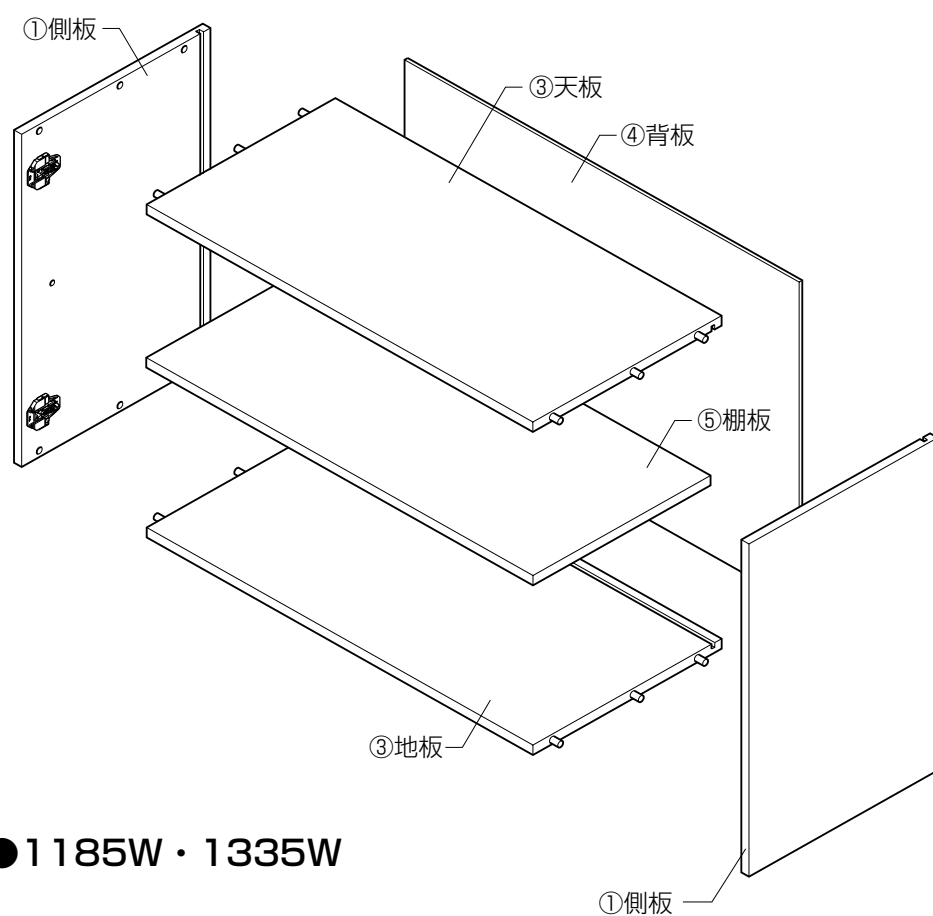
### 1 棧木の設置位置確認

●据付け場所と上がり框の位置および収納セットの左右勝手を確認し、棧木を設置します。

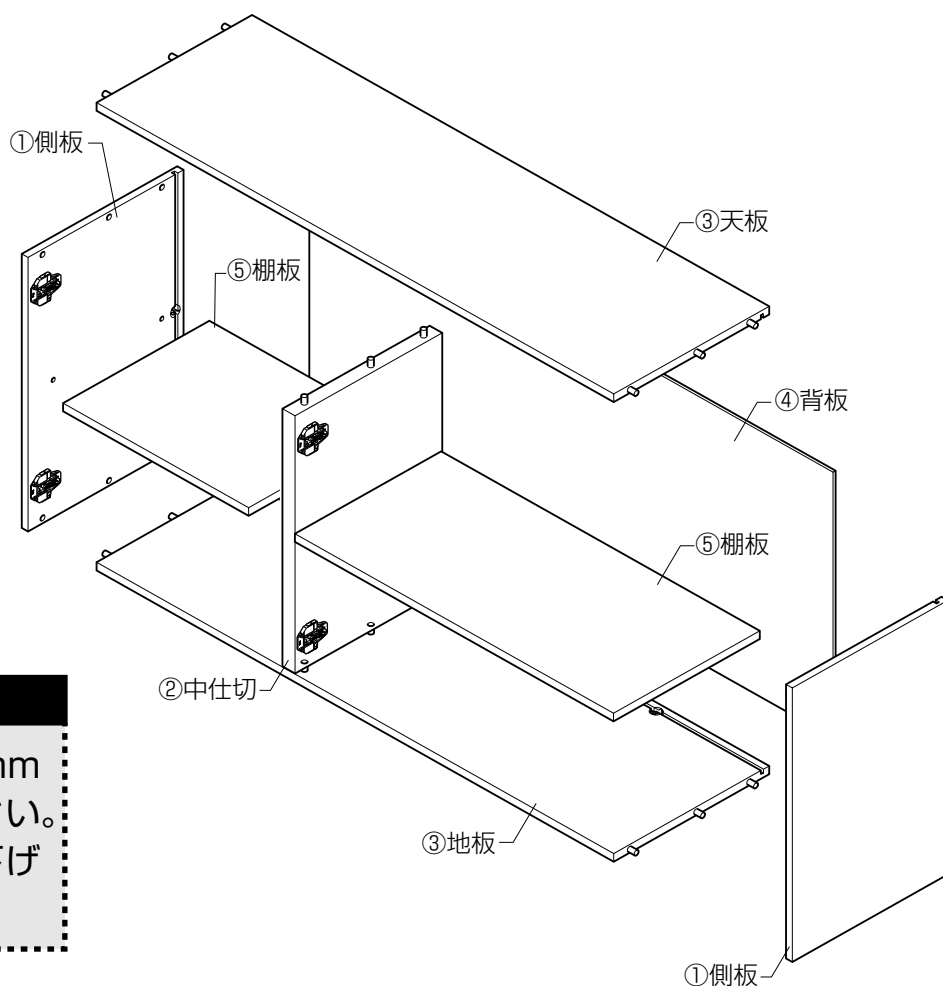


## ■各部名称

### ●445W・740W・890W



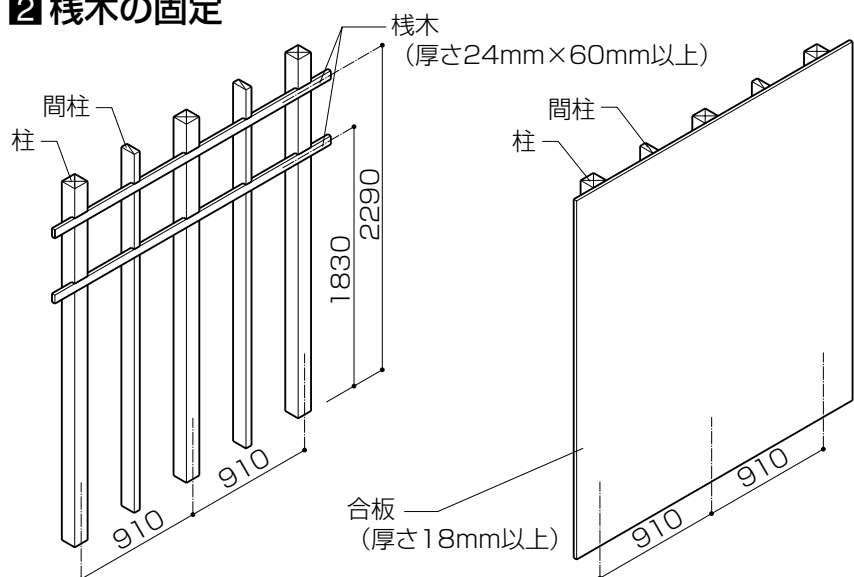
### ●1185W・1335W



### ▲警告

- 指定の位置に、厚さ24mm×60mm以上の硬木の棧木を設置してください。
- 棧木には、虫食い・くされなどのない物を使用してください。

### 2 棧木の固定



### ▲警告

- 棧木は必ず柱・間柱に釘などで固定してください。

### ▲警告

- ベタ張りの場合は、厚さ18mm以上の合板を使用してください。(厚さ12mmの合板では吊下げ強度が足りません。)

## ■組立て順序

※左右勝手は、組立て時の中仕切の取付け位置（丁番座の取付け位置）により選択できます。（1185W・1335W）

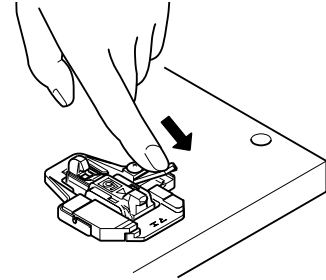
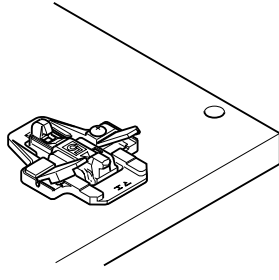
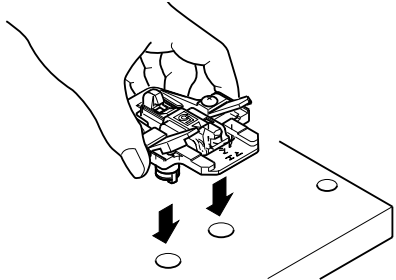
※部材はキャビネット内側がグレー、外側が木目です。

※本組立てでは1185W・1335Wの組立てを示し、445W・740W・890Wには中仕切は付きません。

①側板・中仕切に丁番座を取付けます。

●丁番座を側板（中仕切）の加工穴に差込みます。

●黒レバーをおろして丁番座を固定します。



※445Wの側板には、片側しか丁番座取付け用の下穴はあいていません。キャビネットの天地を逆にして左右の吊元を決定してください。

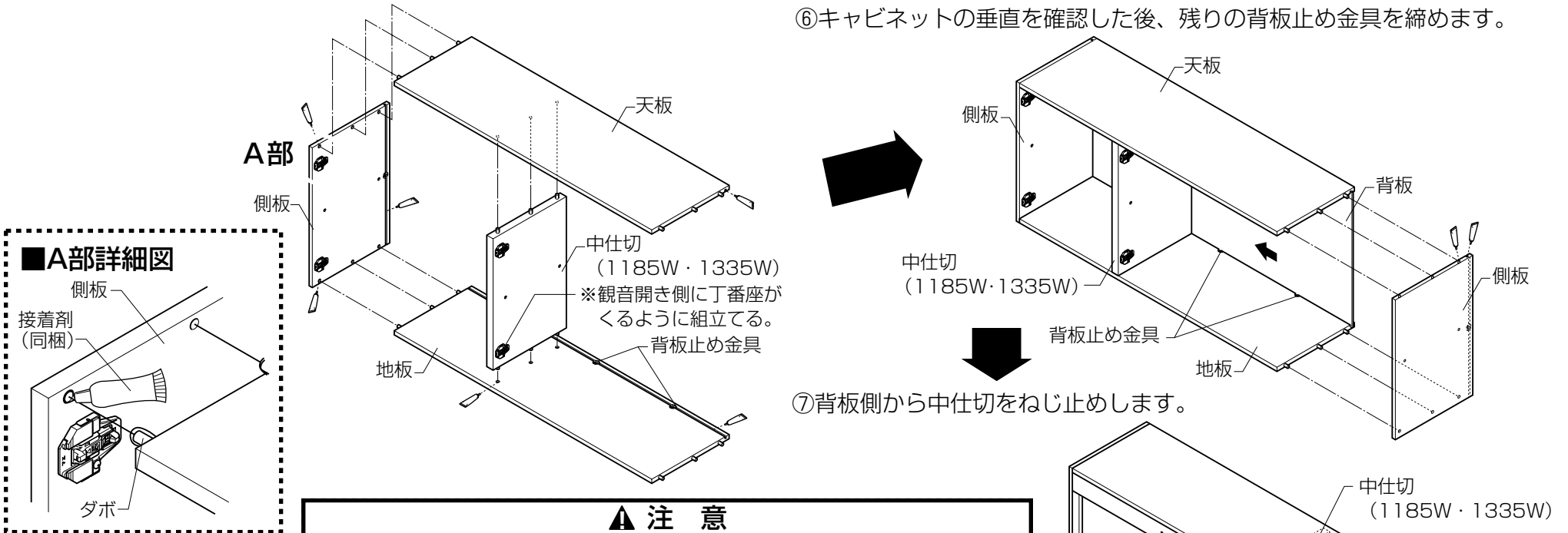
②観音開き側に丁番を向け、中仕切を天板・地板にはめ込みます。

④背板を差込み、背板止め金具を締めます。

③片側の側板に天板・地板をはめ込みます。

⑤もう一方の側板をはめ込みます。

⑥キャビネットの垂直を確認した後、残りの背板止め金具を締めます。



### ▲注意

●接合部には必ず接着剤を充てんしてください。キャビネットの強度が不足し、キャビネット部材の落下および、中に入れている物の落下の原因となります。

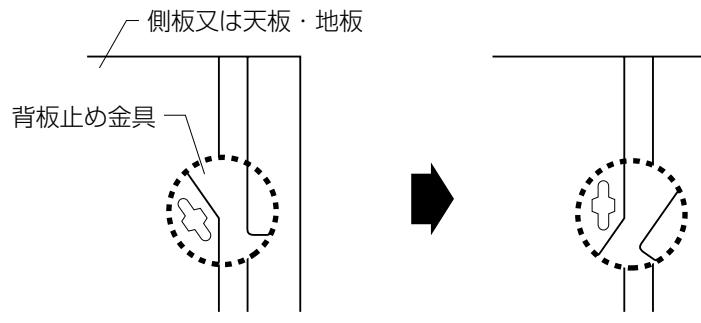
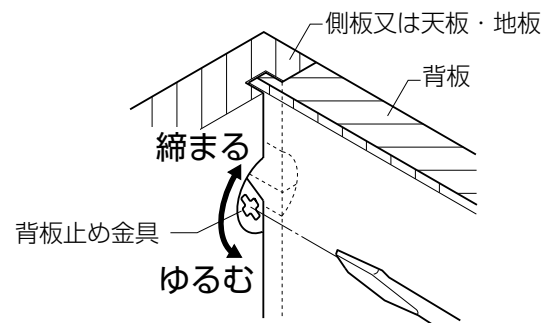
### ■背板止め金具の締め方

※マイナスドライバーで、右回りに締め付けます。

#### 【組立て前】

※この状態で背板を組込んでください。

#### 【組立て時】

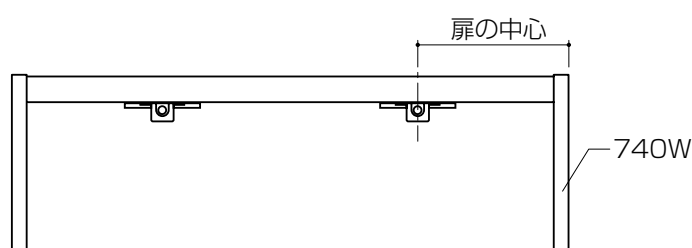
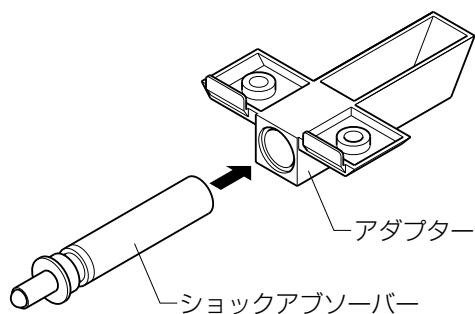


φ3.5×27 (黒)  
(3カ所)

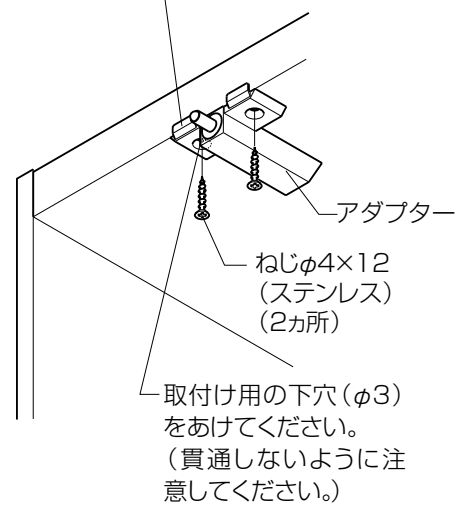
⑧ショックアブソーバーを取付けます。

●アダプターにショックアブソーバーを差込みます。

●ショックアブソーバーが扉の中心になるようにします。



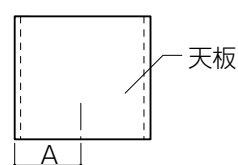
アブソーバーのツメをキャビネットの天板の前面に当て位置を決め付属のねじで取付けます。



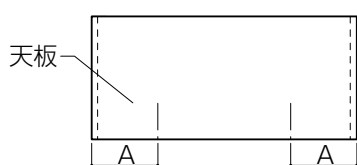
### ■ショックアブソーバー取付け用下穴位置

サイズ	A	B	C
445W	222.5	-	-
740W	185	-	-
890W	222.5	-	-
1185W (445右吊り)	185	555	222.5
1185W (445左吊り)	222.5	630	185
1335W	222.5	667.5	222.5

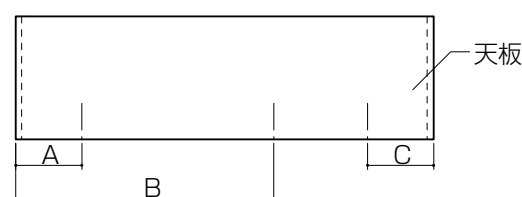
#### ●445W



#### ●740W・890W



#### ●1185W・1335W



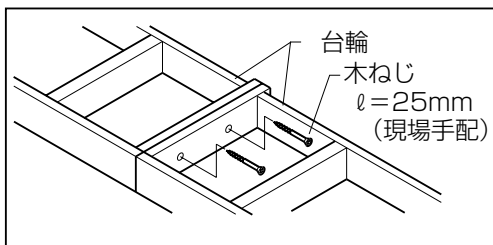
## ■取付け手順

### 1 台輪の設置

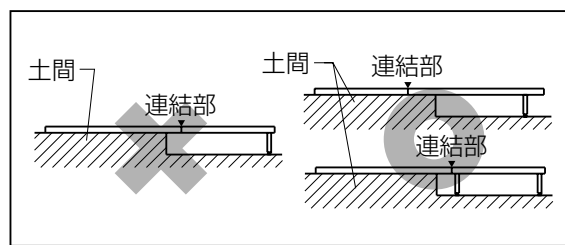
●据付け場所に台輪を置きます。  
※台輪を土間に直置きする場合は、水切りのため、アジャスターで10mm以上浮かせてください。

※1335以上の台輪を使用し、土間に2/3以上かかる場合は、追加脚セット(2本入り)(別売品)を使用し、足を4本設置してください。

※台輪を2台以上並べる場合は、木ねじ( $l=25\text{mm}$ )で連結してください。

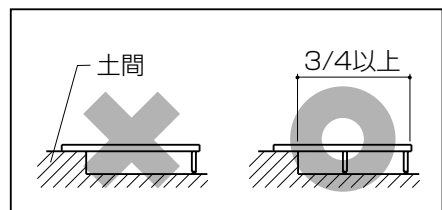
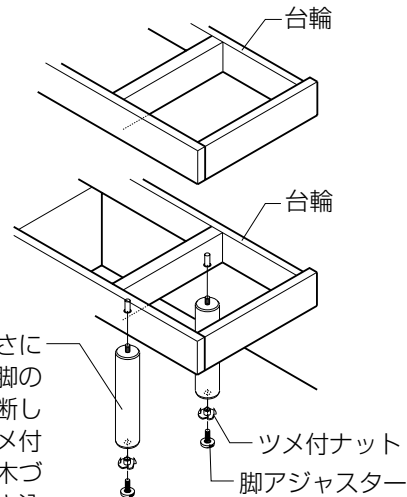


※連結部は、土間にかからないようにしてください。やむを得ない場合は、脚を4本使用し、市販のボルト・ナットでガタツキがないよう、台輪を連結してください。



※台輪の脚の切断可能範囲は、最大100mmです。  
※アジャスターの調整範囲は10mm~25mmです。

※土間の高さに合わせて脚の下端を切断した後、ツメ付ナットを木づちでたたき込みます。

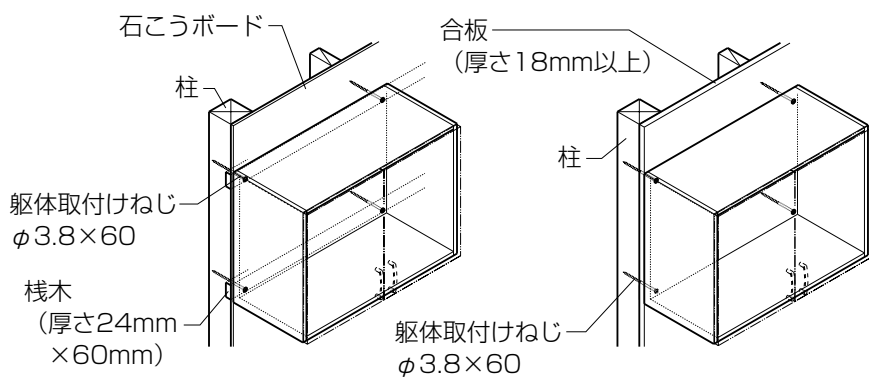


### 2 壁面への固定

●水準器・下げ振りでキャビネットの水平・垂直を調整しながら固定します。  
※固定後、キャビネットをゆすってガタツキのないことを確認してください。

#### ▲警告

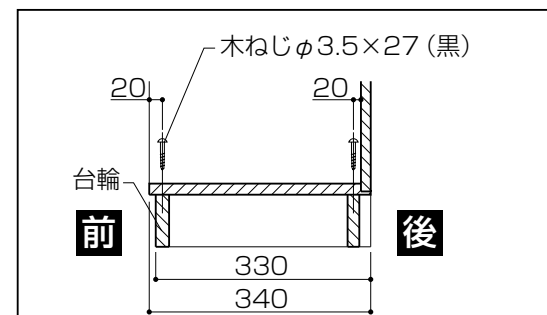
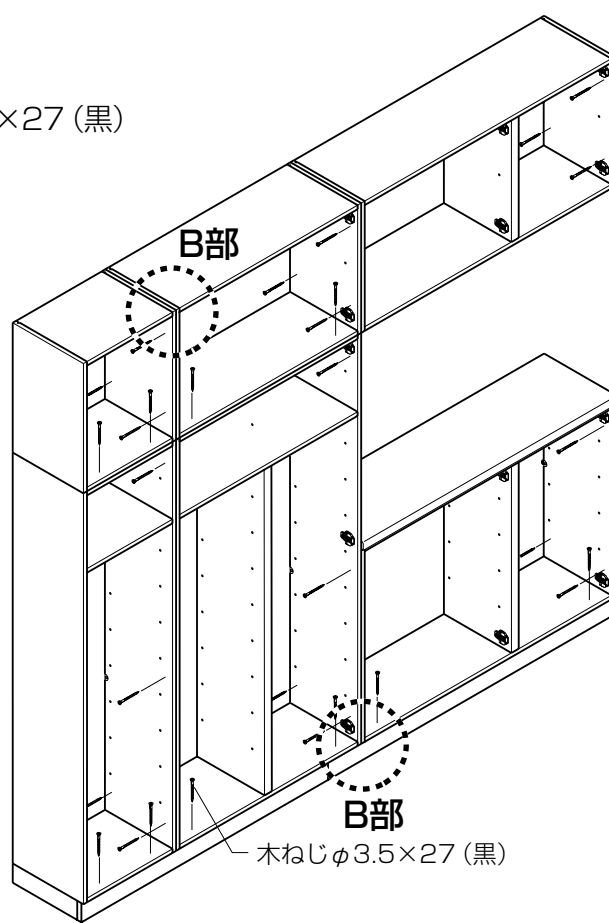
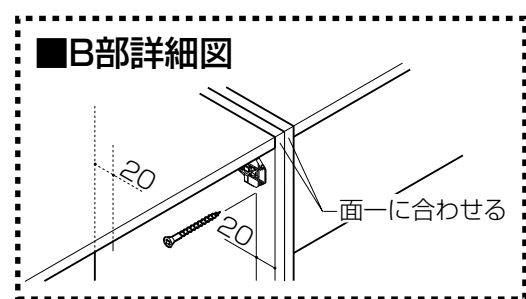
- 必ず指定の躯体取付けねじ $\phi 3.8 \times 60$ を指定の本数使用してください。
- 必ず浅木の中央又は厚さ18mm以上の合板に固定してください。



### 3 台輪の設置

#### 【キャビネット+キャビネット左右連結】

●キャビネットの側板全面を面一に合わせ、付属の木ねじ $\phi 3.5 \times 27$ (黒)で連結します。

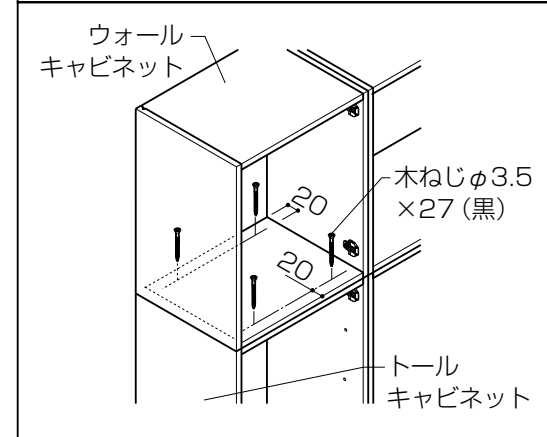


#### 【台輪+各キャビネット連結】

●キャビネットの内側から台輪に木ねじ $\phi 3.5 \times 27$ (黒)で連結します。  
※この場合、背面を合わせ、左右のチリを均等にしてください。

#### 【ウォールキャビネット+トールキャビネット連結】

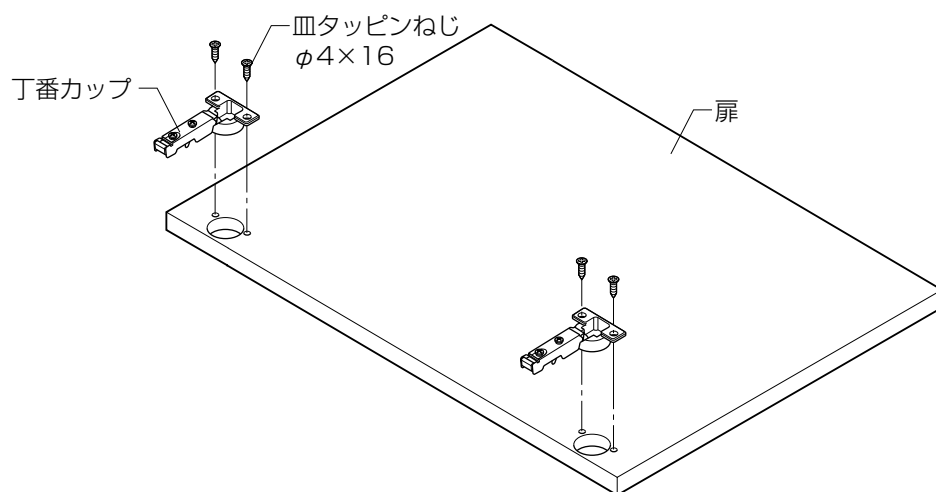
●ウォールキャビネットの地板からトールキャビネットの天板へ(上から下へ)木ねじ $\phi 3.5 \times 27$ (黒)で連結します。



### 4 扉の取付け

①丁番カップの取付け

●扉に丁番カップを同梱のねじで取付けます。

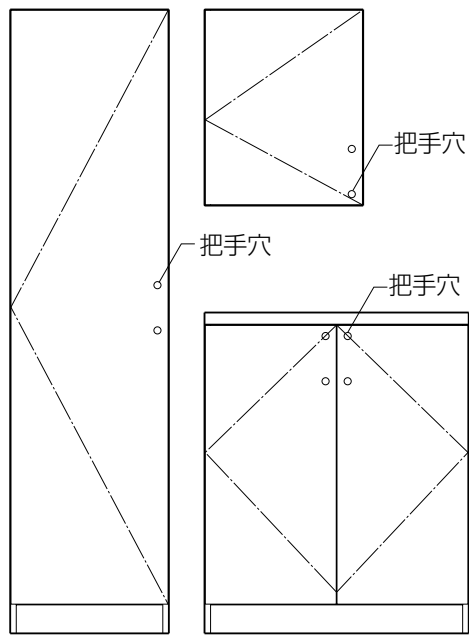


#### ●お願い

●丁番カップを取付ける際は、ねじを空転させないようにクラッチ付ドライバーの弱で締めてください。

②扉の左右勝手の確認

- ウォールキャビネットは把手穴が下、ベースキャビネットは把手が上になります。
- トールキャビネットは扉のセンターに把手穴があります。



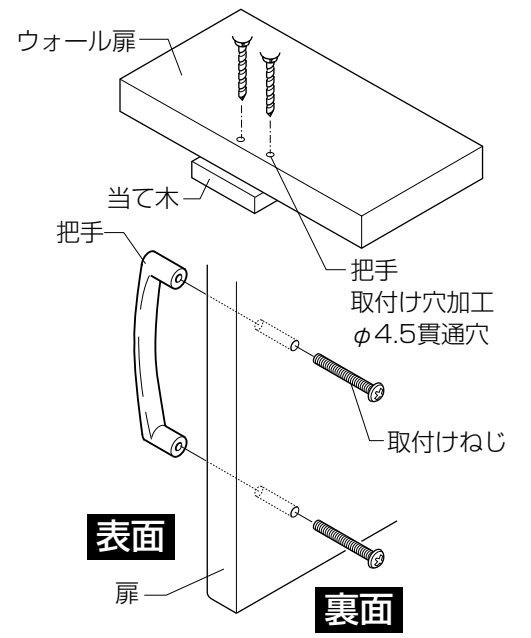
③把手取付け穴加工

- ※445ウォール扉は現場での把手取付け穴加工が必要です。
- ※把手取付け穴加工を開ける時は、必ず当て木を使用してください。

**お願い**  
※当て木をしなくて穴を開けると、フィルムがめくれる原因となります。

④把手の取付け

- ※把手セットはキャビネットに同梱されています。

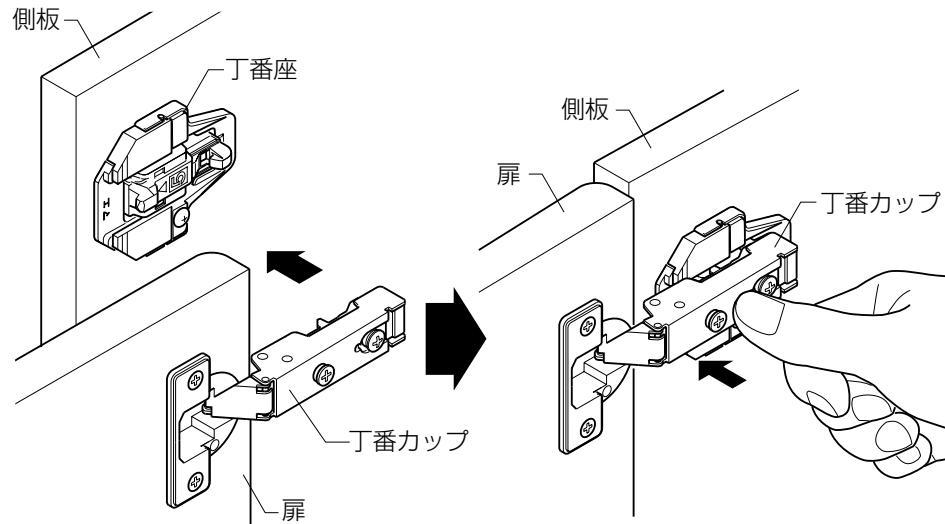


⑤-1.扉の取付け方

**▲ 注意**

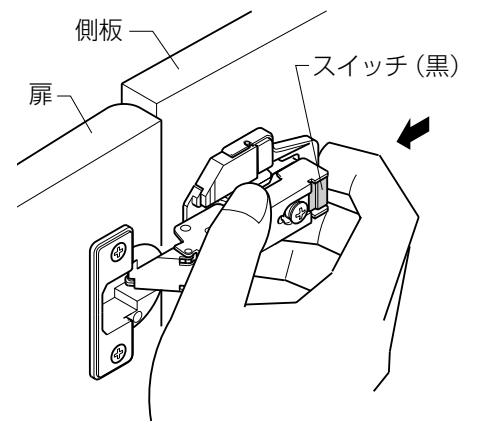
- 扉を本体に取付ける際は、丁番本体が「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。扉の脱落の原因となります。

- ※扉の吊込み後、3回程開閉を行い、丁番がきちんと取付けられているか、必ず確認してください。



⑤-2.扉の外し方

- 扉を外す際は、丁番本体の黒いスイッチを押してください。



■扉の調整

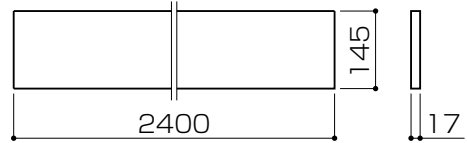
前後調整	左右調整	上下調整
調整範囲 (3mm : 前方2mm ・後方1mm)	調整範囲 (±2mm)	調整範囲 (±1.5mm)
<p>側板 扉 押込む 引出す 前後調整ねじをゆるめる</p>	<p>側板 扉 左回し 右回し 左右調整ねじをゆるめる</p>	<p>側板 扉 上下調整ねじをゆるめる</p>

■オプション部品の取付け

【天井幕板・開口調整材】

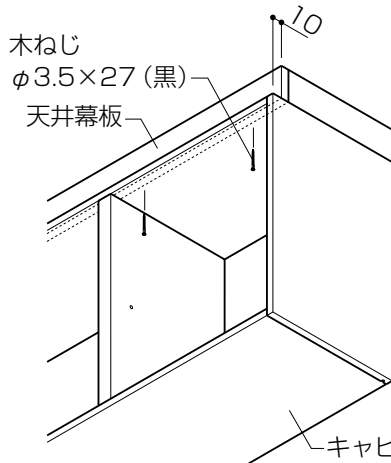
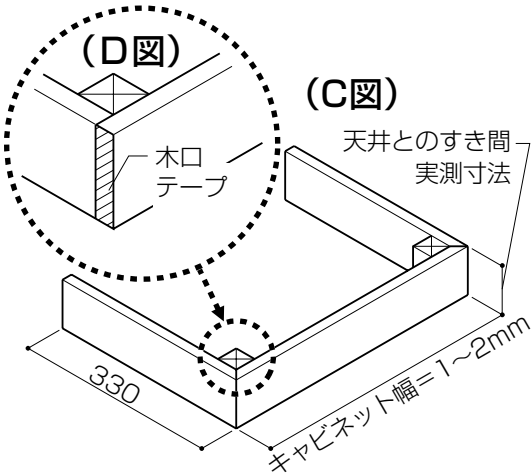
※扉より先に取付けてください。  
 ※どちらも、現場加工用化粧板を使用します。  
 ※天井幕板と開口調整材を併用する場合は、両者を面一に合わせてください。

●現場加工用化粧板



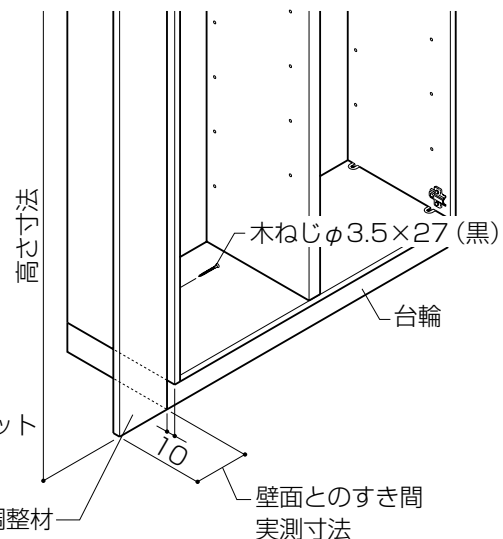
■天井幕板

- ①実測寸法に基づいて化粧板を加工し、組立てます。(C図又はD図)
- ②台輪と面一に合わせて取付けます。
- ③キャビネットの内側からねじ止めします。



■開口調整材

- ①実測寸法に基づいて化粧板を加工します。
- ②台輪と面一に合わせて取付けます。



■耐震ラッチ

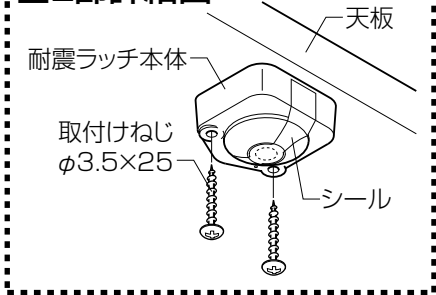
①天板への耐震ラッチ本体取付け穴加工および取付け

●下図の位置に下穴(φ2.5、深さ8mm)をあけます。付属のねじ(φ3.5×25)で、耐震ラッチ本体を取付けます。

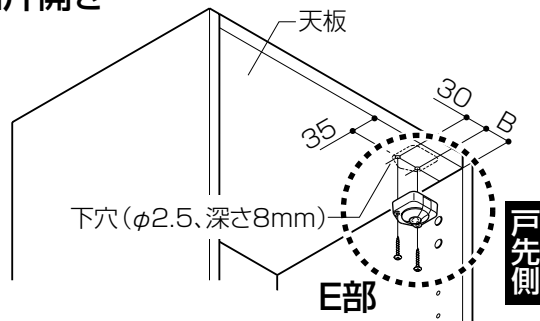
※取付け後、本体についているシールをはがしてください。

キャビネットサイズ	B	C
445W	15	—
740W/890W	—	30
1185W/1335W	15	30

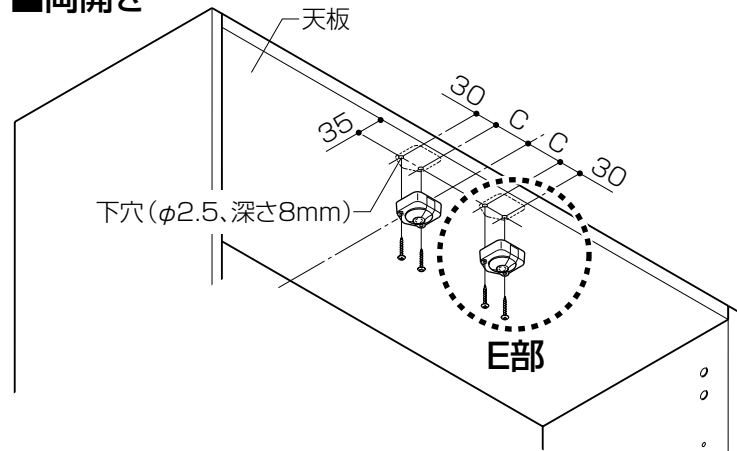
■E部詳細図



■片開き



■両開き

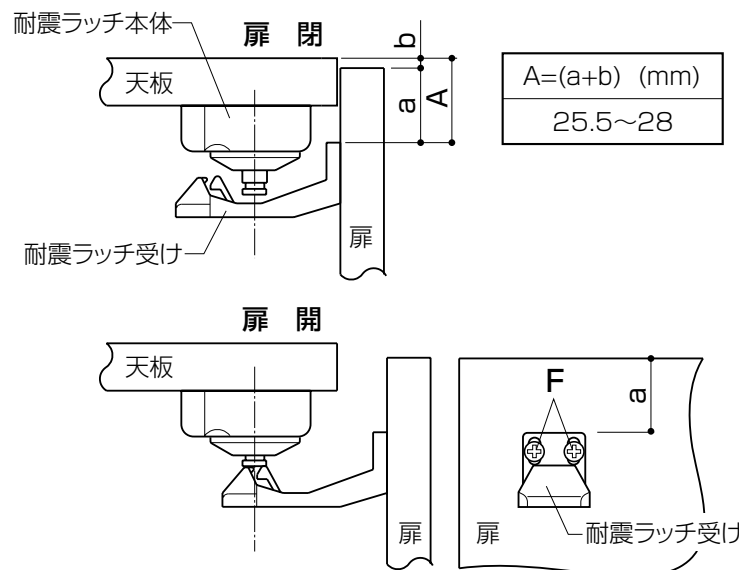
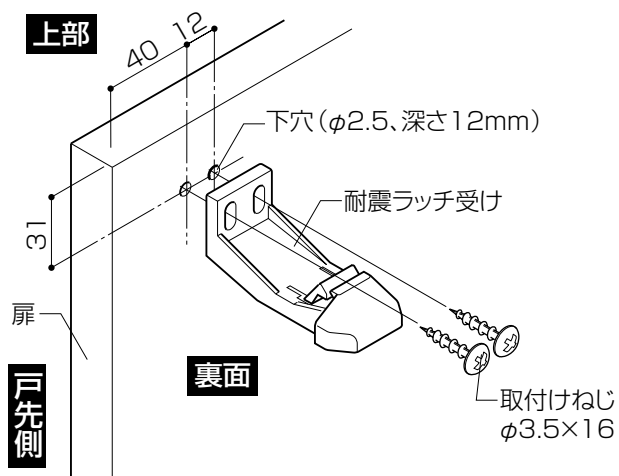


②扉への耐震ラッチ受け取付け穴加工および取付け

※本図は、左吊り扉裏面を示します。右吊り扉は、対称となります。

●扉の裏面戸先側上部の下図の位置に下穴(φ2.5、深さ12mm)をあけます。付属のねじ(φ3.5×16)で耐震ラッチ受けを取付けます。

●Fのねじをゆるめ、耐震ラッチ受けをA寸法の範囲内で上下の調整をしてください。調整後、Fのねじを必ず締め直してください。



お願い  
 ●耐震ラッチ受けがA範囲内に調整されないと正常に作動しません。